

## 第2期長崎市教育大綱（素案）に関するパブリック・コメント【回答】

資料3

No.	意見の内容	長崎市の考え方
1.	<p>丁寧な作られたのだと感じます。6つの項目に分けられていることもわかりやすい点だと思いました。</p> <p>ただ個人的には①「ひとづくり」のみに重点を置いている点、②読んでいると“こうあらねばならない”という圧のようなものを感じる点の2点を改善していただきたいと考えました。</p> <p>①について。全体が「～ひとを育てます。」で終わっていますが、これでは半分のような気がします。そのために何ができるのかを記載してほしいです。つまり「環境づくり」の視点です。そこが抜け、目指す人の姿のことばかり言われても、じゃあどうすればいいのか、となるのではないのでしょうか。詳細には言いませんが、そのような人が育つ、またそのような人を育てやすい環境ってどういう環境なのか。その環境づくりの視点あってこそ、「ひとづくり」につながってくるのではないのでしょうか。人の背景は本当に様々です。どのような背景の人にも一律同じ姿を目指すように育てるのは無理があると思います。勉強が好きな人苦手な人、運動が好きな人苦手な人、人付き合いが好きな人苦手な人などなど。そのような多様な背景や要因を持った人たちが、長崎市の中で「自分は大切にされている」と感じながら育っていくためには、どんな人をも取りこぼさない環境づくりが欠かせないと思います。</p> <p>②について。私が親や養育、教育の関係者なら「こう育てなければならぬ」、子どもなら「こう育たなければならぬ」と感じてしまいます。個人差はあるでしょうが、私にとってはとても強い、“こうあら</p>	<p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>長崎市は、まちづくりの指針である「長崎市総合計画」に基づき、「個性輝く世界都市」、「希望あふれる人間都市」という将来の都市像の実現をめざしています。</p> <p>長崎市教育大綱は、総合計画における将来の都市像を実現できる人材の育成を積極的に進めるにあたり、長崎市の教育に関する方向性を明確にするため、「ひとづくり」の基本理念を示すとともに、長崎のまちの様々な主体がさらに連携を深めながら取り組む「ひとづくりの基本姿勢」や長崎の未来を創るひとの「めざすすがた」を示すこととしています。</p> <p>ご指摘いただいた①「環境づくり」の視点についてですが、例えば、めざすすがたの「1 心身ともに充実し、自ら学び、考え、行動するひと」の、「(5)家庭の社会的な背景や、障害の状況や特性及び心身の発達の段階など、子どもの発達や学習を取り巻く個別の教育的ニーズを把握し、安全・安心に学ぶ環境を整えることで、心身ともに健やかなひとを育てます。」や「2 生涯を通じて、意欲的に学び続けるひと」の「(2) 生涯を通じたスポーツ・レクリエーションや芸術文化に触れる体験などにより、豊かな心と健やかな体をもつひとを育てます。」など、<b>ひとづくりの環境づくりの趣旨を踏まえており、しっかりと進めていきたいと考えています。</b></p> <p>また、②の「こうあらねばならない姿だと受け取られる可能性を少しでも低くするような伝え方」につきましても、教育大綱は、「ひとづく</p>

No.	意見の内容	長崎市の考え方
	<p>ねばならないという圧”を感じる書き方でした。</p> <p>他者に“こうあらねばならない”と受け取られる可能性があるということはとても危険です。それは「人との違い」が自らを苦しめることに繋がるからです。私は不登校支援に携わる機会がありますが、不登校の子どもの中には「他の人は問題なく行けている学校に自分だけが行けない。人と違う自分はおかしいのではないか」と考え、自分自身を追い詰めてしまう子どもがいます。その悩みの背景には、学校には行けるのが当たり前であるという“こうあらねばならない姿”に振り回されている子ども、親、学校、社会が見えます。もしその“こうあらねばならない”が無ければ、「行けない自分は人と違っておかしい」という苦しみは軽減されるかもしれません。重要なのは目指す（目指してほしい）姿を“こうあらねばならない姿”だと受け取られる可能性を少しでも低くするような伝え方にすることだと思います。</p> <p>以上2点を感じました。当たり前ですがあくまでも私の個人的な意見です。このようなコメントできる機会を作っていただいたことに感謝いたします。</p>	<p>り」によって育まれる人材をめざすすがたとして、つまりは「ひとつづくりの目標」を示したものであり、「こうあらねばならない姿」と受け取られることがないように、丁寧に説明していきたいと考えています。</p>